

## 第6学年 国語科学習指導案

い組 男子 15名 女子 17名 計 32名

指導者 古園 正樹

### 1 単元 自分の感じたことを、朗読で表現しよう（教材「やまなし」光村6年）

#### 2 単元について

##### (1) 単元の位置とねらい

この期の子どもたちは、これまでに第5学年の「すぐれた表現に着目して、物語のみりよくを伝え合おう」の学習で、登場人物の心情や動き、情景を表す叙述を捉え、優れた表現について自分の考えをまとめる能力を身に付けてきている。また、第5学年の「特色をとらえながら読み、物語をめぐって話し合おう」の学習で、複数の本を選んで登場人物の人柄や物語の構成などの特色を比べて伝え合おうとする態度を身に付けている。さらに、物語を読み、その解釈を友達と比較しながら伝え合いたいという願いをもっている。

そこで、本単元では登場人物の会話や場面の様子を表す言葉に着目して感じたことや考えたことをまとめて朗読で表現する活動を通して、自分が思ったことや考えたことを、表現性を高めて伝えようとするものである。また、場面と場面を比較したり資料と関係付けて読んだりしながら物語の世界観や作者の考え方を捉える能力や、聞き合った感想を伝え合おうとする態度を身に付けさせたいと考え、単元「自分の感じたことを、朗読で表現しよう」（教材「やまなし」）を設定した。

この学習は、登場人物や登場人物相互の関係から生き方を学ぶ単元「登場人物の関係をとりえ、人物の生き方について話し合おう」の学習へと発展するものである。

##### (2) 指導の基本的な立場

教材「やまなし」は、かへの会話や様子、水や光の様子、かわせみとやまなしなど、五月と十二月の対比的表現から「生と死」「光と影」「奪うものと与えるもの」などの世界観を読み取ることができる文学的文章である。作者宮沢賢治の生き方や考え方を複数の視点から解釈することができる本教材は、自他のよさを認め合おうとする考え方が高まり始めるこの期の子どもたちに適した教材である。また、物語の情景を思い浮かべることにつながる比喻や色彩等の表現が多く使われており、抽象的な思考の発達が見られるこの期の子どもたちに適した教材である。

そこで、本単元では、物語の世界観を自分なりに捉えさせるために、比喻・色彩などの形式に着目させて情景を想像させたり、宮沢賢治に関する資料を参考にして賢治の生き方・考え方が物語に表れていないかを考えたりしながら読み進めさせる。その際、自分が選んだ場面を朗読することを単元の言語活動として設定する。その上で、物語の世界観を朗読で表現するために、「やまなし」をどのように読めばよいかという課題意識をもたせて教材文を読ませることが大切である。

具体的には、まず、試行として教材「やまなし」を読んで感想を交流した後朗読を発表しながら課題を整理させ、朗読するためには物語に描かれた世界を自分なりに捉え、言葉の響きやリズムを生かして表現する必要があることを確認する。また、宮沢賢治の作品に関心をもたせるために、同一作者のブックトークや並行読書を行ったり、朗読モデルを視聴させたりする。

次に、宮沢賢治の生き方や考え方を捉えさせるために、資料として伝記「イーハトーヴの夢」や宮沢賢治の写真・年表等を提示し、「宮沢賢治の生き方・考え方カード」をまとめさせる。また、「やまなし」の世界観を自分なりに解釈させるために、水中の様子を表す言葉の意味を考えて五月と十二月の場面の様子を比較させたり、賢治の生き方・考え方を基に題名の意味を考えさせたりする。

さらに、それぞれの解釈を基に朗読させ、互いの朗読のよさを認め合わせることで、学習に対する成就感や達成感を味わわせるとともに、身に付けた国語の能力を実感させる。

これらの学習を通して、言葉の響きやリズムのもつ美しさを理解するとともに、言葉同士の関係性を問い直して自分の思いや考えを深める力を高め、言葉がもつよさを認識しながら思いや考えを伝え合おうとする態度を身に付けることにつながる。

### (3) 子どもの実態

本学級の子どもたちが、本単元の学習や本教材に対して、どのような興味や関心をもっているかを調査した結果は、次のとおりである。(数字は、人数を表す)

① 初発の感想 (複数回答)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・物語全体について (15) (怖い, 悲しい, 不思議, 意味が分からない)</li> <li>・登場人物などについて (13) (クラムボンとは何か, かにの会話が楽しそう)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現について (9) (比喩がおもしろい・色彩がきれい)</li> <li>・なぜ, 題名が「やまなし」なのか (4)</li> <li>・作者は何を伝えたいのか (4)</li> </ul>
② 物語の世界観についての捉え (複数回答)	
<p style="text-align: center;"><b>【五月】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・抽象的「怖い」「悲しい」「静か」「青白い」(18)</li> <li>・具体的「クラムボン」「子ども」「かに」「魚」(11)</li> <li>・時間や場所「春」「始まり」「海」(3)</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>【十二月】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・抽象的「楽しい」「明るい」(7)</li> <li>・具体的「かにの成長」「やまなし」(15)</li> <li>・時間や場所「秋」「終わり」「海」(6)</li> <li>・無回答 (4)</li> </ul>
③ 表現の工夫 (複数回答)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・比喩 (19)    ・色彩 (15)    ・擬声語, 擬態語 (11)    ・擬人法 (11)    ・額縁構造 (1)</li> </ul>	
④ 言語活動「朗読」について	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ある (21)</li> <li>・ない (11)</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>【気を付けること】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の気持ちを想像する (12)</li> <li>・作者の思いを考える (3)</li> <li>・情景を想像する (3)</li> <li>・強弱や速さに気を付ける (5)</li> </ul>
⑤ 宮沢賢治の読書経験 (複数回答)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ある (22)</li> <li>・ない (10)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・銀河鉄道の夜 (13)</li> <li>・注文の多い料理店 (13)</li> <li>・雨ニモマケズの詩 (6)</li> <li>・セロ弾きのゴーシュ (4)</li> <li>・風の又三郎 (4)</li> <li>・その他 (3)</li> </ul>
⑥ 難語句 (複数回答)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラムボン (9)    ・金剛石 (8)    ・金雲母 (7)    ・幻灯 (7)    ・やまなし (4)    ・かげ法師 (3)</li> <li>・ひるがえす (3)    ・イサド (3)    ・遠眼鏡 (3)    ・にわか (2)</li> </ul>	

多くの子どもたちが物語全体や登場人物などの言動に着目して感想をもっているが、物語の世界観を豊かに想像しようとしていない(①)。これは、本文が2つの場面で構成されており、これまでの読書経験で目にした起承転結の構成とは異なるからだと考えられる。物語の世界観については、五月を抽象的に捉えている子どもが多いが、十二月は「かにの成長」「やまなし」など、具体的な対象に着目している子どもが多い(②)。これは、両場面に共通して登場するかにの成長に着目したり、やまなしが物語の展開に影響を与えていると捉えたりしたからだと考えられる。表現の工夫については、比喩・色彩等の技法に気付いている子どもが多い一方で、物語全体の構成について捉えることができている(③)。朗読については、ほとんどの子どもたちが経験しているが、登場人物の気持ちを表現しようとする意識が強い(④)。これは、物語を読む際に、描かれた世界観を捉える読み取りをする経験が少ないためであると考えられる。宮沢賢治の作品の読書経験については、約3分の2の子どもたちが複数の作品を読んだ経験がある(⑤)。難語句については、作者の造語だけでなく、物語の世界観を捉えることにつながる語句も挙げられている(⑥)。

### (4) 指導上の留意点

以上のことから、指導に当たっては、子どもが試行の朗読から課題を見いだし、物語を自分なりに解釈しながら読み、その解釈を朗読に生かすことができるように、学習内容設定や指導方法を次のように工夫することが大切であると考えられる。

ア 単元・教材への関心を高めさせるために、「銀河鉄道の夜」の朗読モデルを聞いて物語の世界観をどのように捉えたか互いに交流させたり、資料「イーハトーヴの夢」を読んで宮沢賢治の生き方・考え方についてまとめ、教材「やまなし」の世界観には作者のどのような思いが表れているのか話し合わせたりする。

イ 「やまなし」の世界観を自分なりの思いで捉えさせるために、「かにの様子や会話」「水や光の様子」「上から来たもの」などの観点で五月と十二月の場面を比較して感じたことや考えたことを話し合わせ、自分の考えを再構築させながら読ませる。

ウ 自分の学習を振り返らせ、今後の読みへとつなげるために、朗読で表現するために大切なことを振り返らせたり、朗読を通して互いの解釈を交流した感想を伝え合わせたりする。

### 3 目 標

- (1) 比喩・色彩等の優れた表現に気付き、その効果を考えながら朗読することができる。
- (2) 場面同士を比較したり、宮沢賢治の生き方・考え方と「やまなし」を関係付けたりして、作者の作品に対する思いを自分なりに捉えることができる。
  - ・ かにの親子の心情や谷川の様子を想像して、「やまなし」の作品世界を読み取ることができる。
- (3) 宮沢賢治に関心を持ち、自分なりの解釈を基に「やまなし」を朗読しようとするすることができる。

### 4 指導計画（全8時間）

過程	思いを連続・発展させる心の高まり	学習課題・学習内容の構造・主な学習活動	教師の具体的な働きかけ	
<p>つかむ・みとおす①</p> <p>しらべる・ふかめる⑤</p> <p>ふりかえる①</p> <p>いかす①</p>	<p>朗読を工夫すると「銀河鉄道の夜」の世界観が伝わる。「やまなし」はどんな世界観があるのだろうか。</p>	<p><b>1 教材との出会い・試し作り・課題解決の見通し</b></p> <p>○ 教材との出会い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 朗読モデルを聞いた感想の交流</li> <li>・ 試行（試しの朗読）</li> <li>・ 朗読の観点の確認</li> <li>・ 単元の学習課題の設定</li> </ul>	<p>○ 単元や教材への興味・関心を高め、課題意識をもたせるために、「銀河鉄道の夜」の朗読モデルを聞いて感想を交流させたり、試しの朗読をして場面の様子や表現を詳しく捉える必要があることに気付かせたりする。</p> <p>○ 宮沢賢治の生き方・考え方を捉えさせるために、「イーハトーヴの夢」を参考に年表・名言・感想をまとめる紹介カードを作成させる。</p> <p>○ 比喩や色彩等の表現の効果を考えさせるために、並行読書を通して賢治独特の表現や世界観に触れさせ、描かれている情景を想像させる。</p> <p>○ 内容と形式の両面から言葉を吟味させるために、五月・十二月それぞれどのような世界かを考えさせる学習課題を設定し、かわせみややまなしの登場場面における作者の表現の工夫を話し合わせ、その効果を考えさせる。</p> <p>○ 言葉と言葉をつなぎながら自分の考えを深めていかなるために、直感を基に見いだした根拠を賢治の生き方・考え方（既習）、やまなしという題名の意味（教材）、友達の考え（他者）を関係付けて自分の考えを再構築させ、自分なりの解釈をもたせる。</p> <p>○ 学習に対する有用感や成就感を味わわせるために、朗読発表会を通して自他の朗読の違いから相手の解釈や観点到に基づいた朗読のよさを伝え合う相互評価をさせたり、自分の朗読を自己評価させたりする。</p>	
	<p>賢治には農業への理想や人間らしい生き方などの考えがあったのだ。「やまなし」にも思いが込められているのかな。</p>	<p>自分の思いが伝わる朗読をするには、どのように読めばよいのだろうか。</p>		宮沢賢治の文学作品の並行読書
	<p>五月はクラムボンが死んだり、「ぎらぎら」などの表現があって怖い感じがしたりする。恐ろしい世界だと思う。</p>	<p><b>2～5 限定された場面での試行錯誤（本時）</b></p> <p>○ 宮沢賢治の生き方・考え方の把握 「宮沢賢治は、どのような生き方・考え方をしていたのだろうか。」</p> <p>○ 「やまなし」の読み取り 「五月の谷川は、かにたちにとってどのような世界なのだろうか。」 「十二月の谷川は、かにたちにとってどのような世界なのだろうか。」 「五月と十二月は、どんな共通点や相点があるのだろうか。」</p>		
	<p>やまなしが落ちてきてかにたちを喜ばせているところが賢治の考え方と重なるな。</p>	<p><b>6 広い場面での試行錯誤</b></p> <p>「なぜ、宮沢賢治は『やまなし』という名を付けたのだろうか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 宮沢賢治の生き方・考え方と教材「やまなし」との関係付け</li> </ul>		
	<p>「クラムボンは死んだよ。」は不気味な感じが伝わるように低い声でゆっくり読もう。</p>	<p><b>7 試行の見直し</b></p> <p>「自分の読みたい場面を朗読するには、どのようにすればよいだろうか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 朗読記号の記入</li> <li>・ 朗読の練習</li> </ul>		
	<p>朗読は物語の世界観を自分なりに表現できて楽しかった。</p>	<p>作者の生き方・考え方や表現の工夫から物語が描かれた世界を自分なりに捉える。</p>		
		<p><b>8 活用場面の想起</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 朗読発表会と相互評価</li> <li>・ 単元の振り返り（自己評価）</li> </ul>		

5 本 時 ( 4 / 8 )

(1) 目 標

十二月の世界を想像する活動を通して、五月と十二月の谷川を比較してかこの成長、水や光の様子の違い、やまなしの存在に気付き、自分なりの解釈を朗読に表わそうとすることができる。

(2) 本時の展開に当たって

十二月の谷川がどのような世界か捉えさせるために、五月のかこの会話、水や光の様子を表す言葉を想起させながら十二月のかいや谷川の様子を表す言葉に着目させたり、「やまなしを見て、かには居すくまっているかな。」と問い、やまなしがどのような存在であるか話し合わせたりする。

(3) 実 際

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
つかみ・みとす	1 本時の学習課題を設定する。 	(分) ↑	○ 比喩・色彩・擬声語等の表現に着目して言葉を吟味することにつながる学習課題を設定させるために、「十二月も同じ読み方がよいかな。」と問いかけて十二月を五月と同じように朗読した後の感想を交流させたり、五月と十二月の挿絵を並べて提示してそれぞれから受ける印象をひと言で伝え合わせたりさせる。 ○ 自分の考えを明確にさせるために、十二月の世界に対する直感をノートに書かせた上で、直感の根拠となる叙述を基にその理由を考えさせる。
		7	
しらべる・ふかめる	2 十二月の世界について話し合う。 	×	○ かこの成長に気付かせるために、五月と十二月のかこの会話に着目させる。その際、「かこはいつもどこを見ながら会話をしているのかな。」「大きくなったかこはクラムボンを見ることはもうなかったのかな。」と問い、かこの様子の違いについて話し合わせる。 ○ 五月と十二月の水や光の様子の違いに気付かせるために、「十二月の谷川も青く暗く鋼のように見えるのかな。」と問い、十二月の谷川の情景が分かる言葉を抜き出させる。 ○ かこたちにとってやまなしがどのような存在か気付かせるために、「かこは声も出さず、居すくまっているかな。」と問い、かこの様子を表す叙述を基にかこたちがやまなしをどのような存在であると思っているか想像させる。
		26	
ふりかえる・いかす		×	○ 自分の考えを再構築させるために、みんなで話し合った中で出てきた「静か」「落ち着く」「あたたかい」等の中から学習課題のまとめとして適切なものを判断させる。 ○ 十二月の世界を自分なりに解釈できたことを実感させるために、直感とまとめを比較させながら考えの変容を振り返らせる。その際、板書を基に比喩や色彩語、やまなしに着目して五月と十二月を比較させる。
	3 学習のまとめを行う。 	12	
	4 本時の学習を振り返り、自分や友達よかったところを話し合う。 	↓	

